



夢への架け橋

学校通信 文責 工

挑戦する年



能登半島を襲った大地震から1週間が過ぎました。今なお、懸命な捜索や支援活動が続けられています。始業式冒頭に地震で亡くなられた方々へ黙祷をささげるとともに、被災されました皆様の安全と被災地の一日も早い復旧・復興を祈りました。

3学期の始まりに際し、まず4名の生徒が3学期の抱負を発表しました。1年生の栄井さんは、「苦手なことを克服する」、「発表や学習態度を向上させ、一步前進する」と真っ直ぐな眼差しに思いの強さがありました。2年生の大林さんは、「苦手科目の向上」、「自信を持って進級するため、チャレンジしていきたい」と力強く決意を新たにしました。3年生の上野君は、4月からの高校生活を見据え、「勉強と運動の両立」、「人として成長し、誰かのために行動できる人に」と将来の自分を描く強い意志が見えました。生徒会長の松村さんは「もっとよい山中にするため、自分にできることを考え、自分から行動しよう」と前に進もうとする強い意欲を示してくれました。

防災教育のひとつとして、校長から、甚大な被害が生じた能登半島地震を自分事として捉え、災害への対応力を高めていく視点として、「自分の命は自分で守る（自分で判断し行動できる）」「助けられる人から助ける人へ（自分にできる活動を考える）」「命の尊さ・人との関わりの大切さ（命の大切さを学び他者との関わりを深める）」の3点が大切になると話しました。さらに、学ぶ時間や機会を設定することも大事ですが、日常の学校生活の中にあるもの、いま目の前にあるものを大切にすることこそが大事であると続けました。

また、山鹿を訪れる多くの方々が、「山鹿の子どものあいさつは素晴らしい」と褒めていただきます。このことを山鹿中学校の自信と誇りとして、「いつでも・どこでも・誰にでも、心伝わるあいさつができる山中生」とみんなが答えられるようにさらに頑張り、「♪」を意識したあいさつを交わしましょう。と結びました。本年も生徒のチャレンジを保護者の皆さんとともに支え、応援していきたいと思えます。



【山鹿中学校HP】